

沖縄 21 世紀ビジョン、基本計画、実施計画の全体構成

基本構想	沖縄 21 世紀ビジョン (H22年3月)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 意義・性格 県民の参画と協働のもと、概ね2030年の沖縄の姿を描き、その実現に向けた取組の方向性を明らかにする ■ 基本理念 ～時代を切り拓き、世界と交流し、ともに支え合う平和で豊かな「美ら島」おきなわの創造～ ■ めざすべき将来像 ■ 将来像実現に向けた推進戦略 ■ 克服すべき沖縄の固有課題と対応方向 ■ ビジョンの実現に向けて ■ 将来像実現に向けた展開方向 	

基本計画	沖縄 21 世紀ビジョン基本計画(沖縄振興計画)(H24年5月)
<p>第1章 総説</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 計画策定の意義：沖縄の自主性・自立性を発揮し、沖縄 21 世紀ビジョンを実現するための総合的な基本計画として県が主体的に策定 2 計画の性格：これまでの沖縄振興分野を包含する総合的な基本計画であり、同時に沖縄振興特別措置法に位置付けられた沖縄振興計画としての性格を持つ 3 計画の期間：平成 24～33 年度(10 年間) 4 計画の目標：沖縄 21 世紀ビジョンで掲げた 5 つの将来像の実現と 4 つの固有課題の解決を図る <p>第2章 基本方向</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 基本的課題 2 基本的指針(自立・交流・貢献) 3 施策展開の基軸的な考え <ol style="list-style-type: none"> (1) 沖縄らしい優しい社会の構築 (2) 強くしなやかな自立型経済の構築 4 将来像の実現と固有課題の克服に向けた施策展開の枠組み 5 計画の展望値～人口及び社会経済の見通し～ <p>第3章 基本施策</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にす島を目指して 2 心豊かで、安全・安心に暮らせる島を目指して 3 希望と活力にあふれる豊かな島を目指して 4 世界に開かれた交流と共生の島を目指して 5 多様な能力を発揮し、未来を拓く島を目指して 	<p>第4章 克服すべき沖縄の固有課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 基地問題の解決と駐留軍用地跡地利用 2 離島の条件不利性克服と国益貢献 3 海洋島しょ圏沖縄を結ぶ交通ネットワークの構築 4 地方自治拡大への対応 <p>第5章 圏域別展開</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 基本的な考え 2 圏域間連携の強化による広域的な地域圏の形成 3 圏域別展開の基本方向 (北部、中部、南部、宮古、八重山の 5 圏域) <p>第6章 計画の効果的な実現</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 沖縄振興特別措置法と本計画の関係 2 計画の実施方法等

実施計画	沖縄 21 世紀ビジョン実施計画 (H24年9月)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 基本計画を推進する活動計画として、幅広い分野の課題に対応する沖縄県の具体的な取り組みを総合的に明らかにするもの ■ 計画期間は、平成 24 年度から平成 28 年度までの 5 年間 ■ 基本計画で示した「基本施策」の目的や目標とするがたと「施策展開」に係る主な取組を記載 ■ 基本計画で示した「克服すべき固有課題」に係る主な取組を記載 ■ 基本計画で示した「圏域別展開」に係る主な取組を記載 ■ 実施計画(前期)の進捗管理や施策効果の検証等の流れを記載 	

沖縄21世紀ビジョン実施計画に位置づけられた主な取組（道路関係）

1 沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にする島を目指して

●低炭素島しょ社会の実現

【施策展開】ア 地球温暖化防止対策の推進

- 沖縄都市モノレール延長整備事業
- バス利用環境改善事業 ○主要道路における沿岸道空間の緑化事業 等

【施策展開】ウ 低炭素都市づくりの推進

- ハシゴ道路ネットワークの構築
- 自転車利用環境の整備
- パークアンドライド駐車場の整備 等

●価値創造のまちづくり

【施策展開】ア 沖縄らしい風景づくり

- 無電柱化推進事業

【施策展開】イ 花と緑あふれる県土の形成

- 観光アクセス道路の重点的緑化事業
- 主要道路における沿道空間の緑化事業

●人間優先のまちづくり

【施策展開】イ あるいて暮らせる環境づくりの推進

- 歩行空間の整備
- 街路整備事業
- 道路緑化による沖縄らしい風景の創出 等

【施策展開】ウ 人に優しい交通手段の確保

- 沖縄都市モノレール延長整備事業
- バス利用改善事業
- 自転車利用環境の整備 等



○沖縄都市モノレール延長整備事業
(てだこ浦西駅イメージ図)

2 心豊かで、安全・安心に暮らせる島を目指して

●社会リスクセーフティネットの確立

【施策展開】ア 安全に暮らせる地域づくり

- 交通安全施設の整備

【施策展開】イ 災害に強い県土づくりと防災体制の強化

- 災害防除（道路）
- 無電柱化推進事業
- モノレール施設長寿命化事業

●地域特性に応じた生活基盤の充実・強化

【施策展開】ア 地域特性に応じた生活基盤の整備

- 生活に密着した道路整備（県管理道路、市町村道）



○街路整備事業（国際通り）

3 希望と活力にあふれる豊かな島を目指して

●自立型経済の構築に向けた基盤の整備

【施策展開】ウ 陸上交通基盤の整備

- 那覇空港自動車道の整備
- 沖縄西海岸道路の整備
- ハシゴ道路ネットワークの構築
- 沖縄都市モノレール延長整備事業
- パークアンドライド駐車場の整備

●世界水準の観光リゾート地の形成

【施策展開】ウ 観光客受入体制の整備

- 観光周遊自転車ネットワークの形成
- 観光アクセス道路の重点的緑化事業 等
- 案内表示の充実強化（道路案内標識等）

●地域を支える中小企業等の振興

【施策展開】イ 商店街・中心市街地の活性化と商業の振興

- コミュニティ道路整備事業

●離島における定住条件の整備

【施策展開】ウ 交通基盤の整備と交通ネットワークの充実強化

- 定住を支援する道路整備



○定住を支援する道路整備（新川白保線）

4 世界に開かれた交流と共生の島を目指して

●世界との交流ネットワークの形成

【施策展開】イ 世界と共生する社会の形成

- 案内表示の充実強化（道路案内標識等）

【施策展開】ウ 国際交流拠点の形成に向けた基盤の整備

- 那覇空港自動車道の整備
- 沖縄西海岸道路の整備
- ハシゴ道路ネットワークの構築

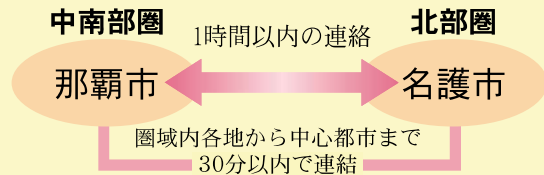
沖縄県広域道路整備基本計画

沖縄県は、活力ある地域づくりを推進し、豊かさやゆとりある生活を実現していくため、中長期的視点から、地域構造を強化し各種地域活性化施策を支援するために必要な、高規格幹線道路(沖縄自動車道、那覇空港自動車道)と一体的に機能する広域的な幹線道路網に関する今後の整備計画として、沖縄県広域道路整備基本計画を策定しました。

本計画は、地域整備や道路整備の目標及び基本方針を定めた「沖縄県広域道路整備の基本方針」と、これをネットワークとして示した「沖縄県広域道路網マスタープラン」から構成されます。〔平成5年12月22日公表〕

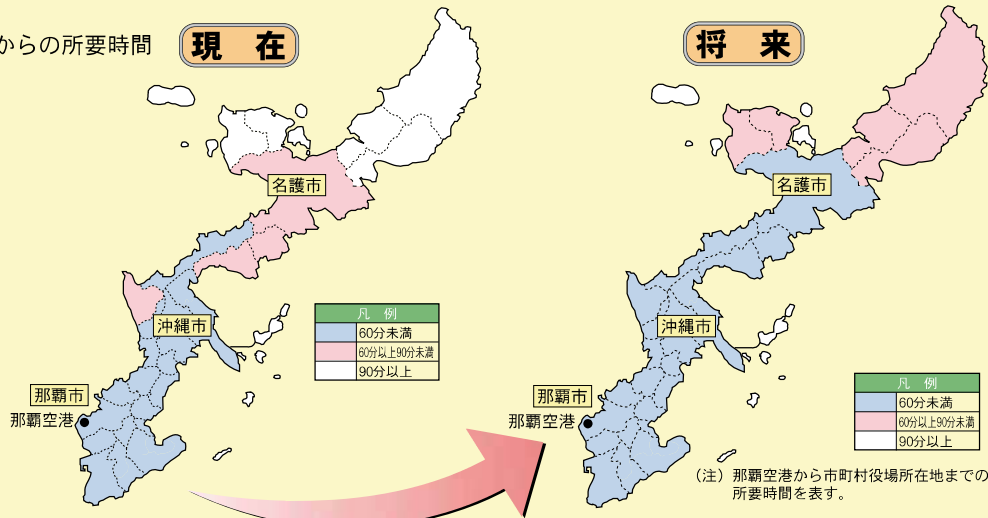


那覇糸満線(新川交差点)



沖縄県広域道路整備の基本方針

■那覇空港からの所要時間



(注) 那覇空港から市町村役場所在地までの所要時間を表す。

沖縄県広域道路網マスタープラン

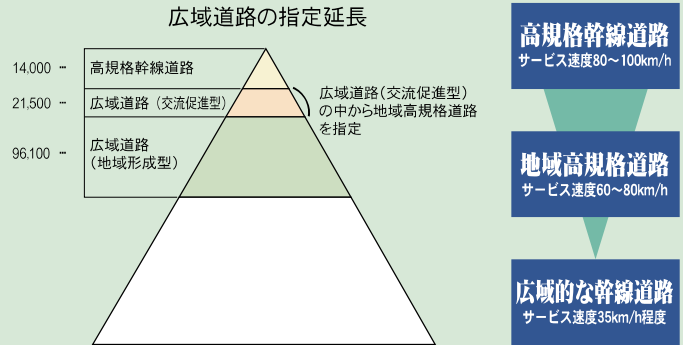


※この図は今後の道路整備のマスタープランであり、具体的な路線ルート、位置などを規定するものではありません。

凡例		
路線表示区分	指示方法	備考
高規格幹線道路	IC	・併用及び整備計画区間
	□□□□	・基本計画及び予定路線区間
広域道路	—	・本線のトラフィック機能確保のため、整備の目標として特に構造上の強化を図ろうとする道路
	—	・沿道からのアクセス性に配慮した道路
検討区間	□□□□	・路線構造について今後検討する区間

高規格幹線道路

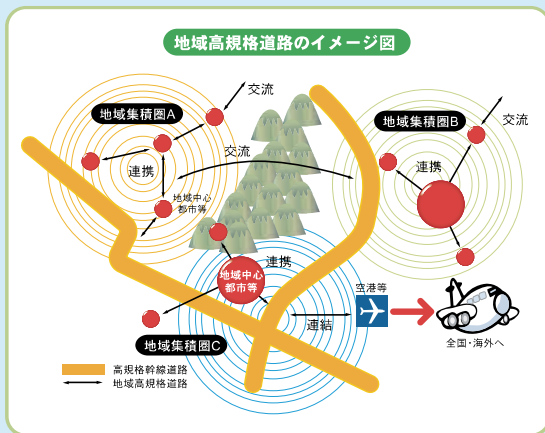
高規格幹線道路は、全国的な自動車交通網を形成する自動車専用道路です。昭和62年6月道路審議会答申に基づき6月30日に建設大臣により、国土開発幹線自動車道等(11,520km)及び一般国道自動車専用道路2,480km(本州四国連絡道路約180kmを含む)を合わせ21世紀初頭の完成をめざして、14,000kmの高規格幹線道路網の整備を進める予定となっています。



地域高規格道路

地域高規格道路とは、全国的な高規格幹線道路網と一体となって、通勤圏域の拡大や都市と農山村地域との連携の強化等による地域集積圏の拡大(連携機能)、高規格幹線道路を補完し、物質の流通、人の交流の活発化を促す地域集積圏間の交流を図り(交流機能)、空港・港

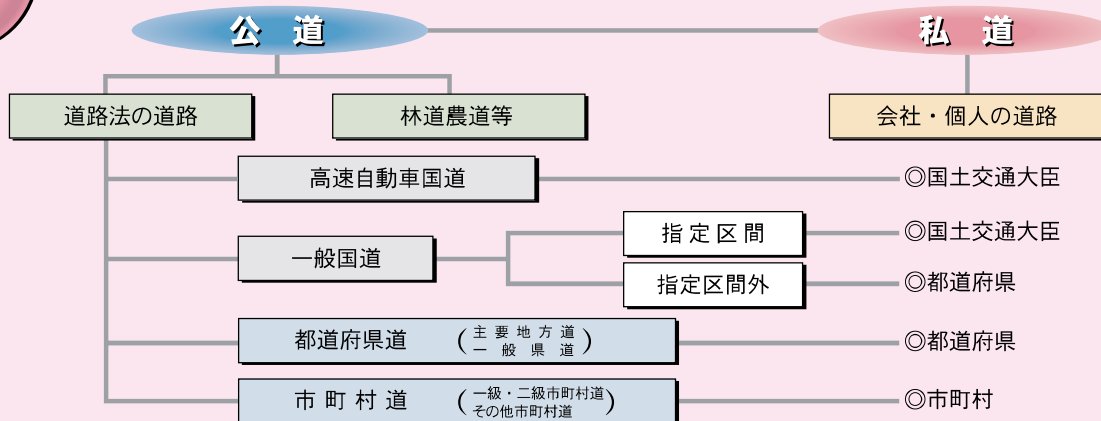
湾等の広域交流拠点や地域開発拠点等との連絡(連結機能)を図るための道路であり、自動車専用道路またはこれと同程度の機能を有し、高速サービスを提供できる道路として整備します。



- 地域高規格道路
- ①連携機能 (combination)
 - 核都市と農山村地域をはじめとする周辺地域が連携した広域的な地域・都市構造の形成を図る。
 - ②交流機能 (communication)
 - さまざまな地域圏との活発な交流が可能となる多角的ネットワークの形成を図る。
 - ③連結機能 (connection)
 - 国際的、全国的な交流を図るため、空港等他の広域交通機関との効率的なネットワークの形成を図る。

ひとくちメモ

道路の種類



◎は道路の管理者

ハシゴ道路の構築

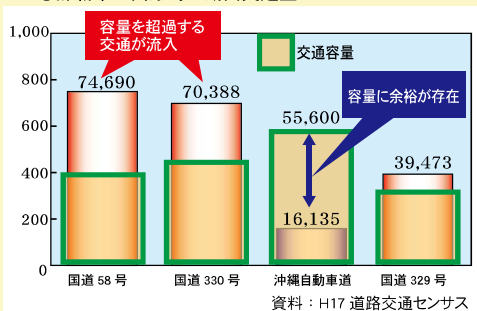
沖縄県における「道路のアンバランスな使われ方」や「那覇都市圏の深刻な交通渋滞」、「東西分断により沖縄自動車道ICへのアクセス性の低下」等の交通問題を解消するために『ハシゴ道路』の整備を推進します。

1. 現状と課題

○道路のアンバランスな使われ方

沖縄県を縦貫する幹線道路は、交通容量を超過する交通を処理するのに対して、沖縄自動車道は交通容量に余裕があります。

●那覇市～西原町の断面交通量



○深刻な交通渋滞

沖縄県の渋滞損失時間の約6割が那覇都市圏で発生しています。道路による抜本的な対策が必要です。

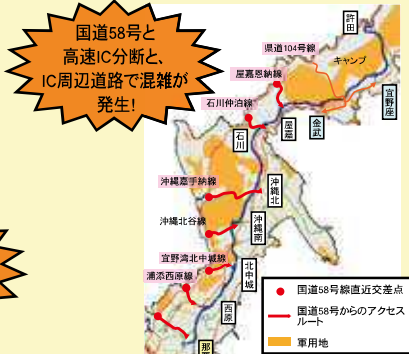
●キロ当たり渋滞損失時間(H19年)



○米軍基地による地域分断

基地などによる地域分断から高速道路の利便性が低下しています。新規ICの整備等による高速道路の利用促進が重要です。

●国道58号から沖縄自動車道ICへのアクセスルート



2. 『ハシゴ道路』の整備計画

- ①南北を走る強固な『3本の柱』
～国道58号(西海岸道路を含む)、329号、沖縄自動車道～
- ②柱を支える『東西連結道路』
～浦添西原線、県道24号線バイパスなど～
- ③高速を使いやすくするICの増設
～スマートICの設備～
- ④モノレールと高速バスの連携
～シームレスな乗り換えを可能とする～

【ハシゴ道路の4つの要素】

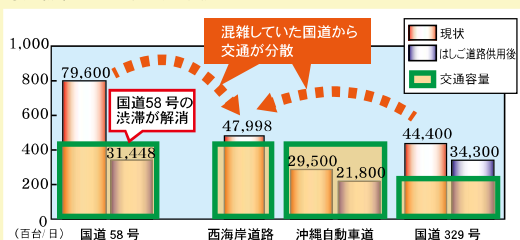


3. 『ハシゴ道路』に期待される効果

○道路のアンバランスな使われ方の解消

国道58号等に集中していた南北方向の交通需要が分散されます。

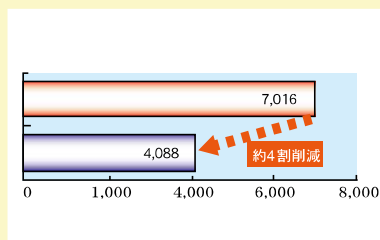
●那覇市～西原町の断面交通量



○深刻な交通渋滞

交通渋滞による渋滞損失時間が4割削減できます。

●渋滞損失時間の推移



○高速道路のICまでのアクセス時間短縮

高速ICまでの所要時間の短縮により、高速道路の利便性が向上します。(高速ICまで10分で到着できる人口が39万人増加)

●高速IC10分到達人口の推移

